

コンパクトフリーアームミシン お取扱いのしおり

目次

お取扱いのしおり 目次 付属品	I 修理、サービスについて
A 各部の名前と使いかた P.1 上糸のかけかた	B 糸の準備 P.2 下糸の巻きかた 下糸の入れかた 下糸の引き出しかた
C 縫ってみましょう P.5 模様選択ダイヤル 直線縫い	P.6 糸調子の合わせかた 返し縫い

ジグザグ縫い 裁ち目かがり P.7	三点ジグザグ縫い まつり縫い P.8
ボタンホール縫い P.9	ボタンホール縫い P.10
D 針、糸、布の組 み合わせかた P.11	E 針のとりかえかた 正しい針の選びかた F 電球の交換のしかた P.12
G ミシンのお手入れ 送り歯とカマのお手入れ 注油のしかた P.13	H ミシンの調子が悪い とき P.14

付属品

EM954
(EM-3)



ジグザグ押え
(ミシンについて
います)



スプールキャップ
(大) (小)



プラスチック
ボビン(3個)



針 (#11×1
#14×2
#16×1)



糸通し



ドライバー(小)



針板ドライバー

—暮らしを豊かにする—

A 各部の名前と使いかた

糸調子
つよいゆわい

上糸調子ダイヤル

上糸の強さを調節します。
5(+)の方向—強くなります。
1(-)の方向—弱くなります。
指示線(くわしくはP.6を見てください。)

返し縫いレバー

レバーを下げている間は、返し縫いを行います。

START・STOPボタン

ボタンを押すとミシンは動き出します。もう一度押すと止まります。

START STOP

- (カマに糸がからんだりしてミシンが止まったときはP.13の説明に従ってください)

補助テーブル

裾・袖口などの筒物縫いのとき図のようにはずして使うと便利です。内側に付属品が入っています。

トップカバー
スプールピン
天ビン
下糸巻装置 (下糸巻軸)
プーリー(はずみ車)
プーリーは必ず手前にまわしてください。
押え締めネジ
押え
すべり板
針板
ハンドル
ターミナルボックス
押え上げレバー
押えの上げ、下げを行います。押え上げは2段階ですので、矢印方向へさらに上げますと厚い布でもスムーズに入ります。

模様選択ダイヤル

模様選択ダイヤルを回して、模様を選択します。
● 回すときは必ず針を布より上にしてください。(くわしくはP.5をみてください。)

スピード切替ボタン

HIGH ●(速い)
SLOW ●(遅い)
OFF ●(停止)

- ミシンを使用しないときは、危険ですから、OFF(停止)にしてください。

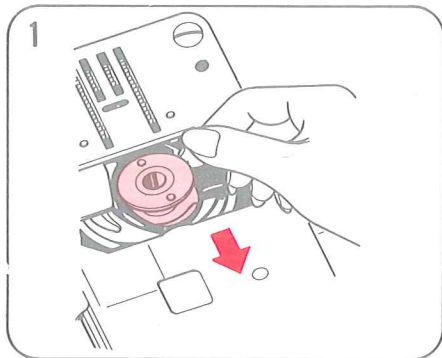
電源コードと照明ランプ

コードを取り出してコネクタ①をターミナルボックスに差し込みます。つぎにプラグ②をコンセントに差し込みます。照明ランプが点灯します。
● プラグを差し込むときは、スピード切替ボタンをOFF(停止)、START・STOPボタンを“STOP”にしてください。
● ミシンを使用しないときは、プラグをコンセントから抜いてください。照明ランプは消えます。
● 抜くときはコードを引っ張らないでください。コードが傷み危険です。

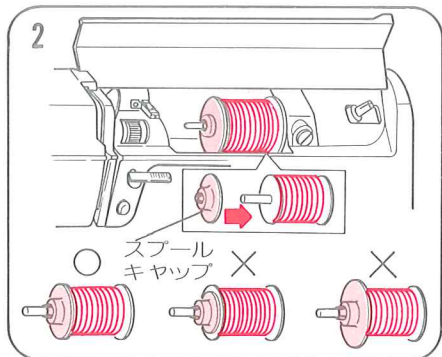
B 糸の準備

下糸の巻きかた


- すべり板を手前に引き出します。
指を図のように差し入れ、ポピンを取り出します。
* 下糸を巻いている間も針は動いていきますので、針に手を近づけないようにしてください。又押えは必ず上げてください。

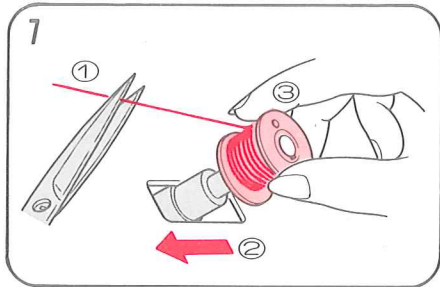
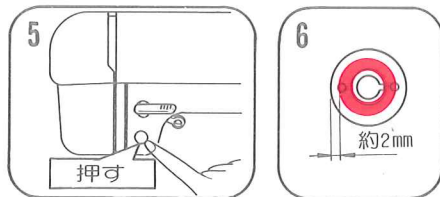
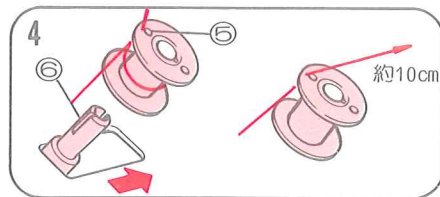
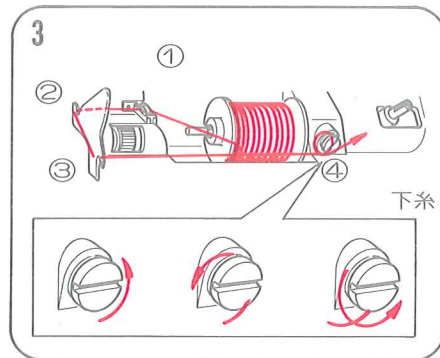


- トップカバーをあけ、スプールピンに糸コマを入れます。付属のスプールキャップをスプールピンに図のように差し込みます。



- * スプールキャップは糸コマの大きさに合わせてください。スプールキャップより大きな糸コマを使用すると、上糸の調子がくずれ、縫い目がきれいに仕上がりにません。

- *  図の様な糸コマは必ずこの向きでスプールピンに差しこんでください。



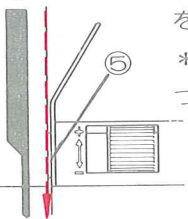
- 図のように①②③④の順に糸を掛けます。
- 次に、ポピンの穴⑥に糸を入れ、下糸巻装置(下糸巻軸)⑦に差し込みます。
下糸巻装置(下糸巻軸)を矢印方向に押します。
- スピード切替ボタンをHIGH(速い)かSLOW(遅い)かにセットします。
糸端を持って、START・STOPボタンを押し、巻き始めます。(しばらく巻いたあと、ポピンの穴から出ている糸を切りとってください。)

- 図のように巻いたら、START・STOPボタンを押し、止めます。
* 巻きすぎないように注意しましょう。(約2mm程残します。)多少、山状または谷状に巻けても縫いには差しかえありません。
- ①糸を切り、②下糸巻装置を矢印方向に押し、元の位置に戻し、③ポピンを抜き取ってください。

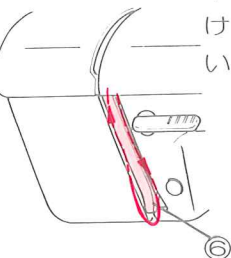
上糸のかけかた

①～⑩の順番で掛けます。

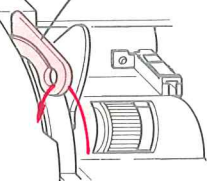
⑤ 糸調子皿⑥の間に糸を入れます。
*糸は矢印方向へ引っ張ってください。



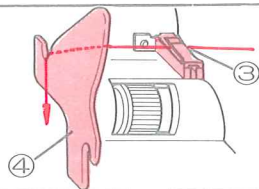
⑥ 糸案内⑥に糸を掛けて、上にもっていきます。



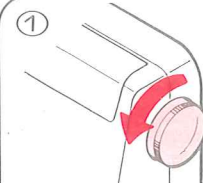
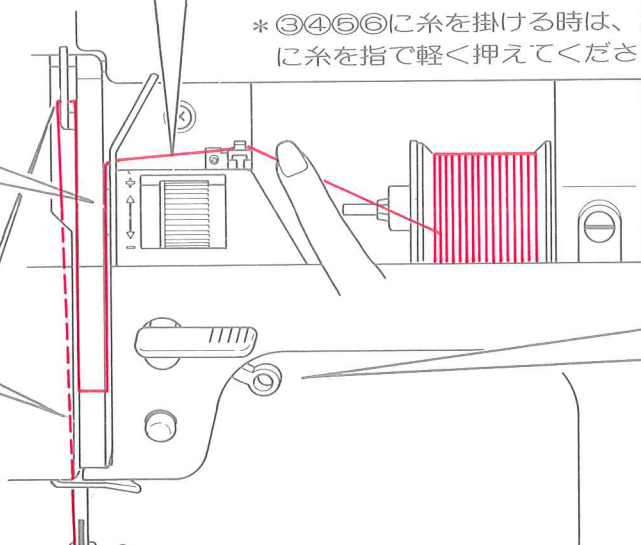
⑦ 天ビン⑦のスリット穴にしっかり糸を掛けます。



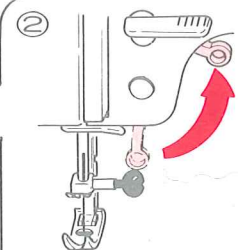
③ 糸コマから糸を引き出し、糸案内③、④に図のように掛けます。



*③④⑥⑥に糸を掛ける時は、図のように糸を指で軽く押えてください。

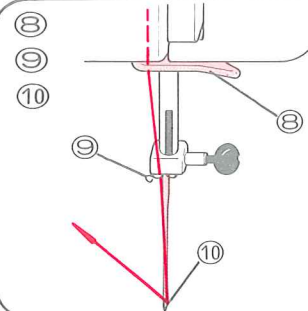


プーリー（はずみ車）を手前に回して、天ピンを最上点に上げます。



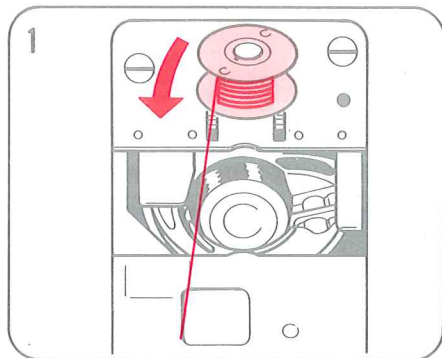
押え上げレバーを上げます。

⑧ 天ビンからおろした糸を、糸案内⑧に右から掛け、糸案内⑨に左から掛けます。
⑨ 針穴⑩に糸を手前からうしろに通します。糸通しを使うと便利です。
*糸は15cm程引き出しておいてください。

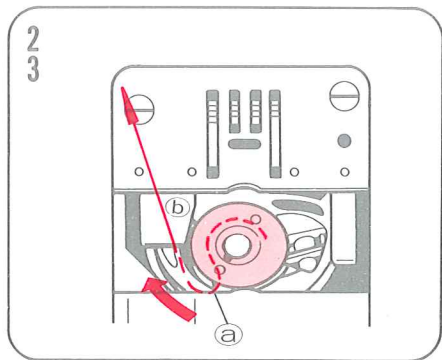


下糸の入れかた

1. 下糸の巻き方向を矢印のようにしてボビンを入れます。

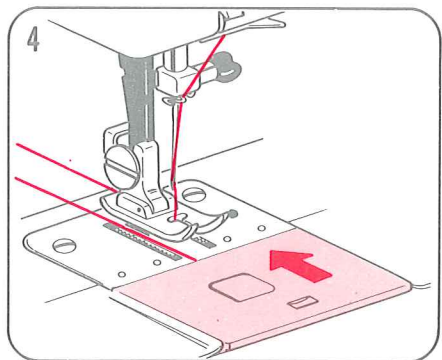


2. 糸端を矢印の方向へ引きながら、ボビンケースの切り口①から②へ出します。



3. ボビンが回り出すまで糸を引いてください。

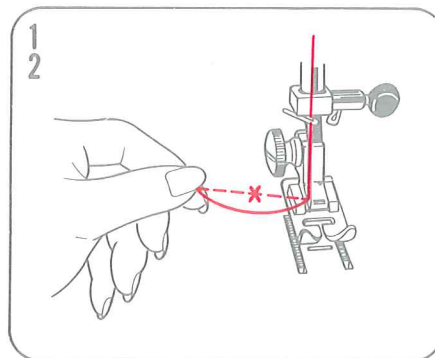
4. 糸を15cm程、後側へ引き出します。



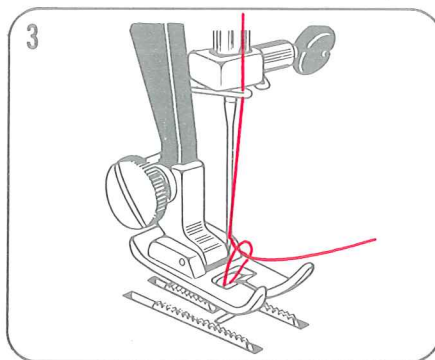
* ボビンは専用のプラスチックボビンをお使いください。

下糸の引き出しかた

1. 押え上げレバーを上げます。
2. 上糸の端をつまんでプーリー(はずみ車)を手前に一回転させ、天ビン上がりきったところで止めます。
プーリー(はずみ車)を回すときは、上糸をたるませましょう。

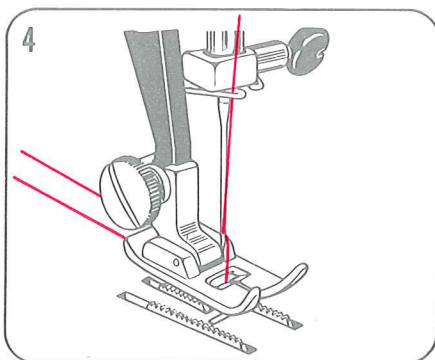


3. 上糸を軽く引き上げると下糸が出てきます。



* 天ビンが下がっているときには、糸がカムに引っ掛かって引き出せない場合があります。

4. 上糸、下糸をそろえて後側へ20cm程出します。



5. すべり板を閉めます。

* 糸を通したまま、プーリーを逆回転させますと糸がらみ、糸切れの原因になりますのでプーリーは必ず手前に回してください。

C 縫ってみましょう

模様選択ダイヤル

模様選択ダイヤルで模様を指定します。

* 模様選択ダイヤルを回すときは、必ず針を布から上に上げておきます。

針を上げないと、針が曲がったり、折れたりする場合があります。

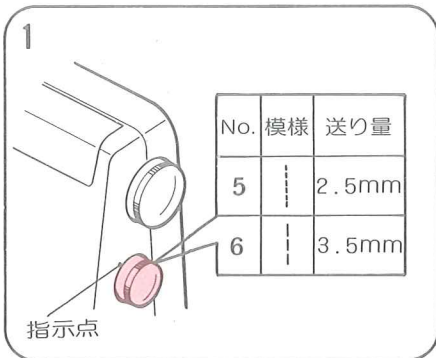
NO	1,3 2,4	5,6	7,8,9	10	11
模様					
名	ボタンホール	直線縫い	ジグザグ縫い	まつり縫い	三点ジグザグ
称					
用途	ボタンの穴かが	一般縫い	アパッチフリースケ 裁ち目がかり	裾、袖口のみ	つくるい縫い 裁ち目がかり

直線縫い

直線縫いを行います。

1. 模様選択ダイヤルを5または6にセットします。

* 模様の番号は指示点に合わせてください。

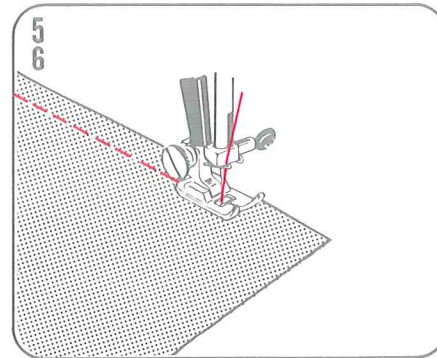
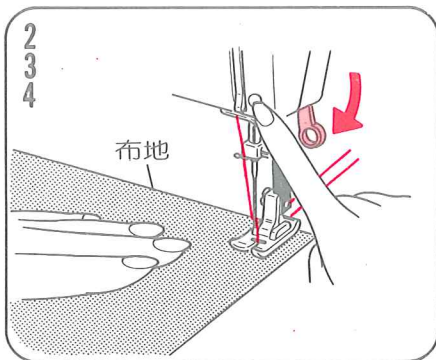


2. 押え上げレバーを上げ、布を入れます。

3. プーリー(はずみ車)を手前に回して縫いたい位置に針をおとし、押え上げレバーを下げます。

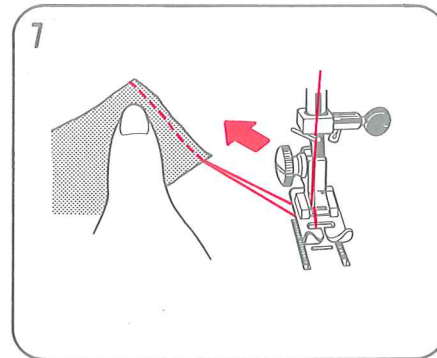
4. START・STOP ボタンを押し、縫います。

* 手は軽く布に添えます。



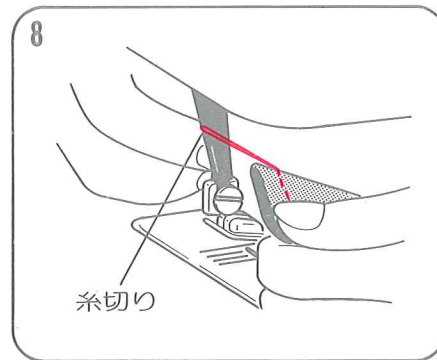
5. 縫い終わりは、もう1度START・STOP ボタンを押し、止めます。

6. 縫い終わりましたら、プーリーを手前に回して針を布から上げ、押え上げレバーを上げます。



7. 布を図の方向に引き出します。

* 布が引き出しにくい場合は、天ピンが上がりきったところになっているか確認してください。

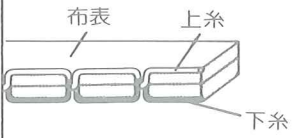
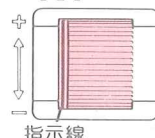
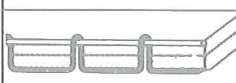
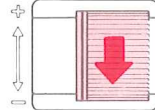
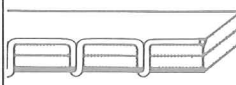
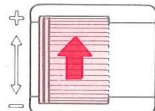


8. 押え棒の後側にある糸切りで糸を2本揃え、下へ下げるようにして切ります。

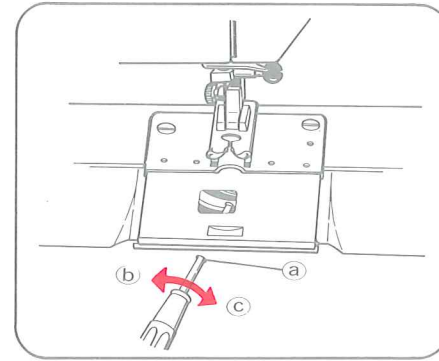
糸調子の合わせかた

このミシンは従来のミシンにくらべ、上糸と下糸のバランスの調節がとりやすくなっています。

そのため、通常は3に合わせています。
また、特殊な布地や糸を使用した場合も微調節ができます。

縫い目	上糸調子ダイヤル	
<p>正しい縫い目</p> 	<p>糸調子 4 2 つよい 05 3 10 よわい</p> 	<p>上糸と下糸が布の真ん中で交差して糸のたるみ、布縮みのない状態が正しい糸調子です。</p>
<p>上糸がつれている場合</p> 	<p>糸調子 4 2 つよい 05 3 10 よわい</p> 	<p>上糸の調子が強すぎるので、ダイヤルを-(↓)の方向へ回し、上糸を弱くします。</p>
<p>上糸がたるんでいる場合</p> 	<p>糸調子 4 2 つよい 05 3 10 よわい</p> 	<p>上糸の調子が弱すぎるので、ダイヤルを+(↑)の方向へ回し、上糸を強くします。</p>

- * 糸調子のだしかたは、ためし縫いをしながら、上糸調子ダイヤルを動かして、上糸の強さを調節してください。
- * 上糸が布の下に多くでた場合、上糸調子皿の間に糸が入っておりません。もう一度P.3を参照してください。

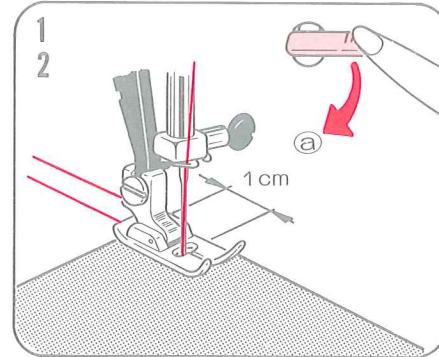


上糸調節だけで正しい縫い目にならない場合は下糸を調節します。

1. 補助テーブルをはずします。
2. 下糸調節ネジ用の穴(a)に付属のドライバーを差し込み、調節ネジに合わせます。
3. 下糸が強すぎる場合はb方向に弱すぎる場合はc方向に微調節します。

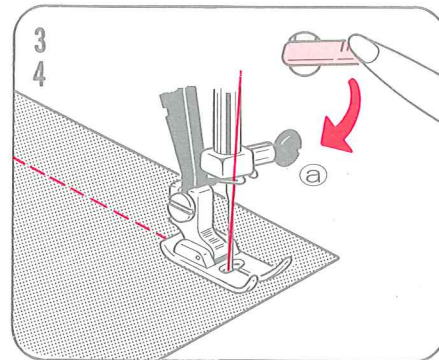
返し縫い

返し縫いは、縫い始めや縫い終わりのほつれを防ぐために行います。



1. 縫い始めのほつれ止めをするときは、布端から1 cmくらいのところに針を落としてセットします。
2. 返し縫いレバーを矢印aの方向へいっぱい下げた状態でSTART・STOPボタンを押し、縫い始めます。

* 返し縫いをする間は返し縫いレバーを下げたままにします。

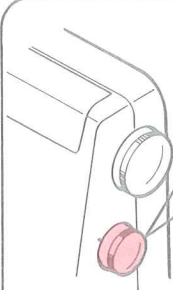


3. 返し縫いレバーから指をはなすと前進縫いにもどります。
- * 布は手で無理に引っ張らないで縫いたいと思う方向へ案内しながら縫います。
4. 縫い終わりも返し縫いレバーを下げて、3~4針返し縫いをします。

* 縫い始め、縫い終わりが縫いにくい場合は、手でプーリー(はずみ車)を手前に回して縫います。

ジグザグ縫い

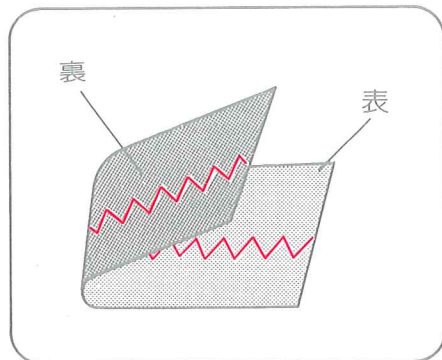
- 模様選択ダイヤルを7、8、9のいずれかにセットします。
- * ジグザグ幅は3種類選べます。
 - * 送り量は自動的にセットされます。
 - * 縫う前にためし縫いをしてください。



No.	模様	ジグザグ幅 (mm)	送り量 (mm)
7		1.8	1
8		3	1.5
9		4	2

ジグザグ縫いの糸調子

上糸を少し弱くして下糸が布上に出ないようにすると美しく仕上がります。

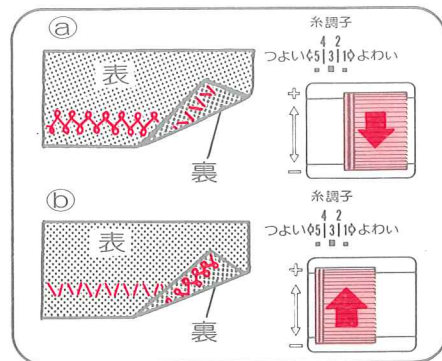


① 上糸調子が強すぎる場合

上糸調節ダイヤルを-(↓)の方向へ回します。

② 上糸調子が弱すぎる場合

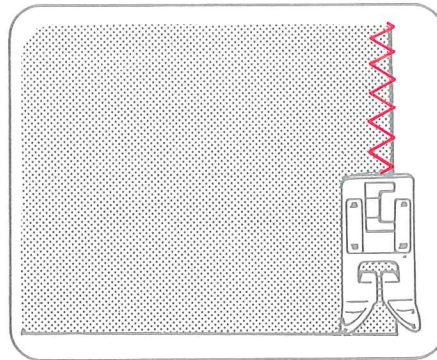
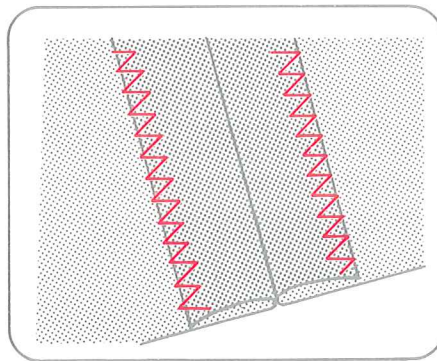
上糸調節ダイヤルを+(↑)の方向へ回します。



裁ち目かがり

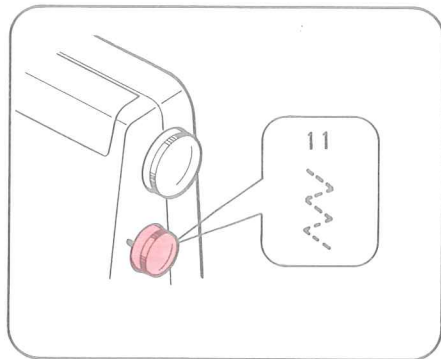
布端のほつれ止めを行います。

1. 模様選択ダイヤルを8または9にセットします。
2. プーリー(はずみ車)を回して針が右側へきたとき、布端より少しはずれるように布の位置を決めます。
3. 押え上げレバーを下げ、縫います。

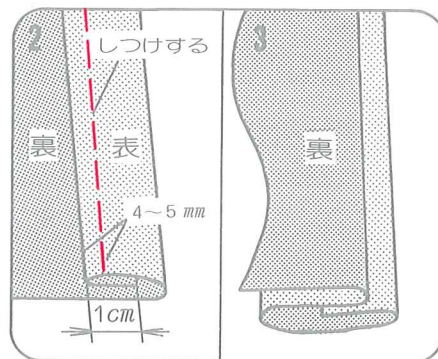
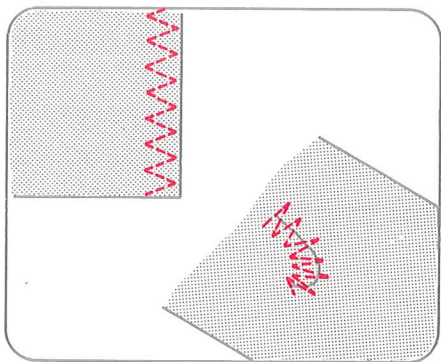


三点ジグザグ縫い

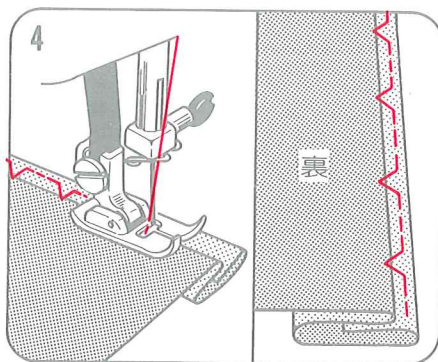
模様選択ダイヤルを11にセットします。



薄物、伸縮性の布地の裁ち目が
がり及びつくり縫いに使用し
ます。



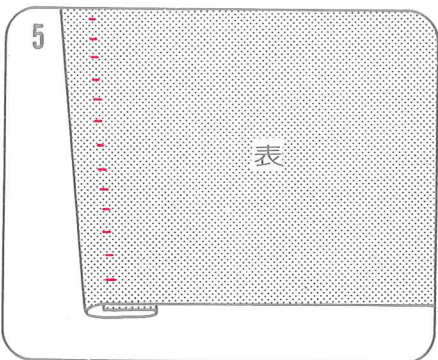
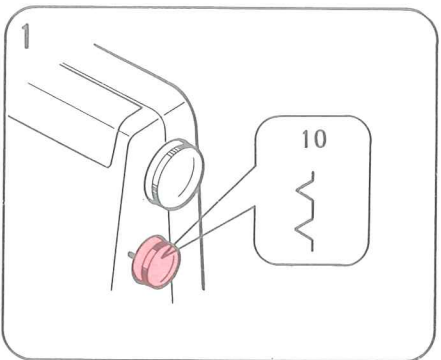
2. 布端を1 cm折ります。さらに布を折り、折り端から4~5mmの位置にしつけをかけます。
3. 図3のように折り返します。



4. プーラー(はずみ車)を手前にまわして針が左側へきたとき折り山にわずかに針が落ちる位置に布を置き、押え上げレバーを下げて縫います。

まつり縫い

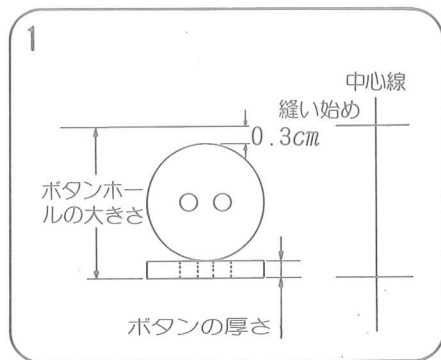
1. 模様選択ダイヤルを10にセッ
トします。



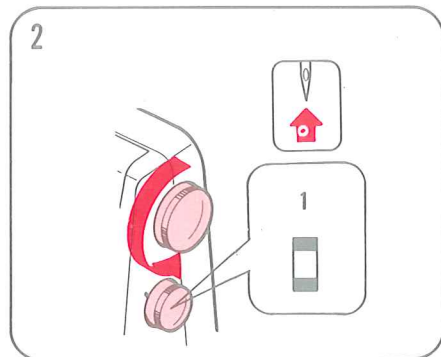
5. 布を表に返します。
* 布にかかる縫い目が多すぎたり少なすぎたりしないよう注意しましょう。

ボタンホール縫い

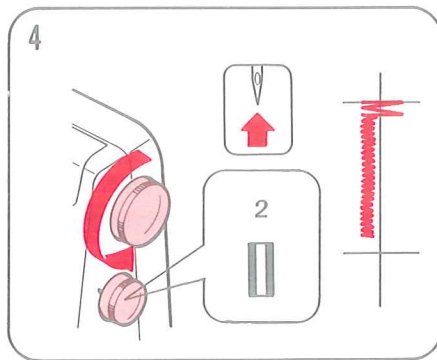
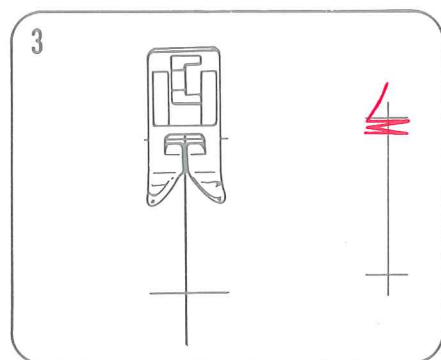
1. ボタンホールの大きさを決め布にしるしをつけます。
(ボタンの直径 + ボタンの厚さ + 0.3cm)



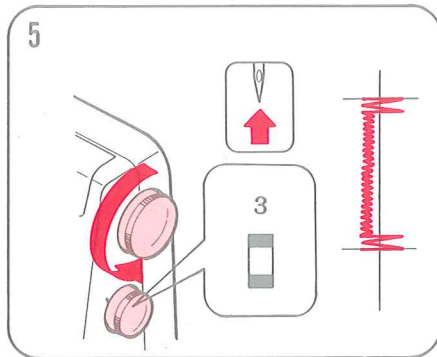
2. 針を最上点に上げダイヤルを1にセットします。



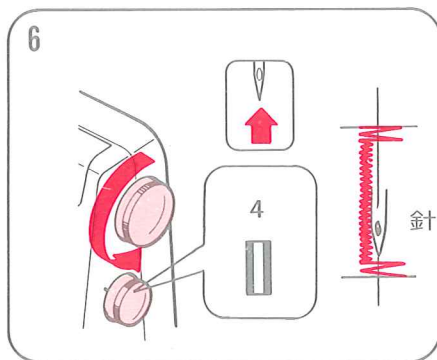
3. 布にしるした中心線と押えの中心が合うように布をセットします。
押え上げレバーを下げ、かんぬき止めを5~6針縫います。
*** 縫いすぎると押えにつかえボタンホール縫いができないことがあります。**



4. 針を最上点に上げダイヤルを2にセットします。
左側を縫います。

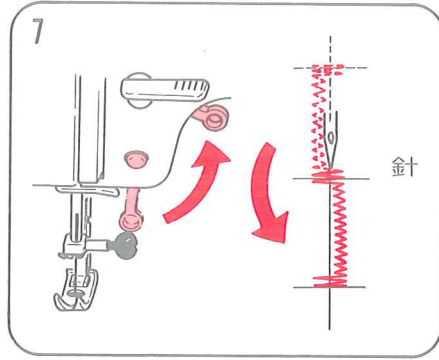


5. 針を最上点に上げダイヤルを3にセットします。
かんぬき止めを縫います。
5~6針縫って針が左から出てくるようにします。

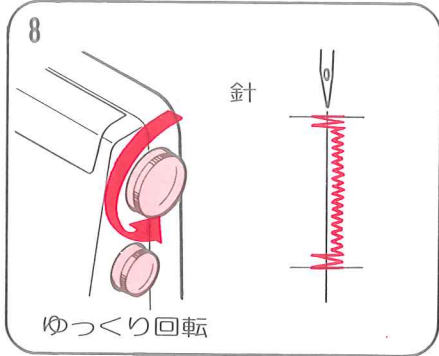


6. 針を最上点に上げダイヤルを4にセットします。
針を布に最下点までさし込みます。

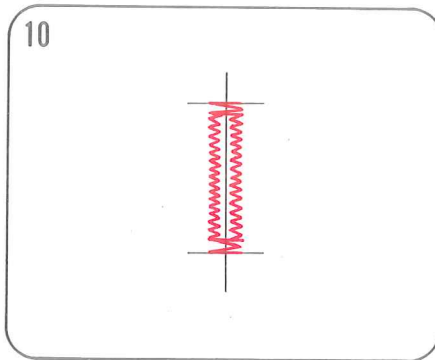
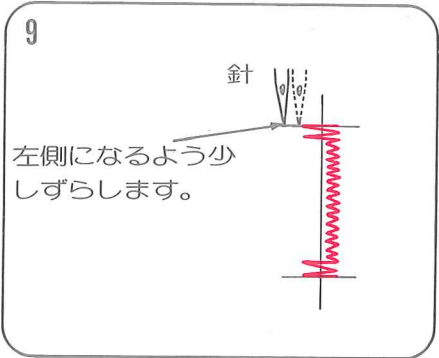
7. 押え上げレバーを上げます。
針をさしたまま布を180°回転
させます。



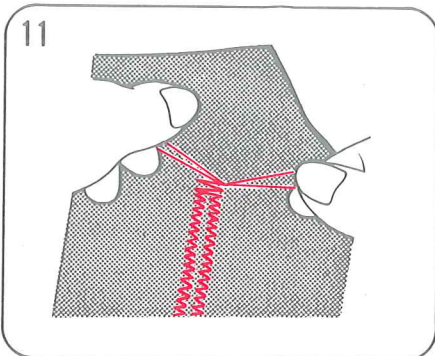
8. プーリー(はずみ車)を手で回
転させ図のように針が布のす
ぐ上にくるようにします。



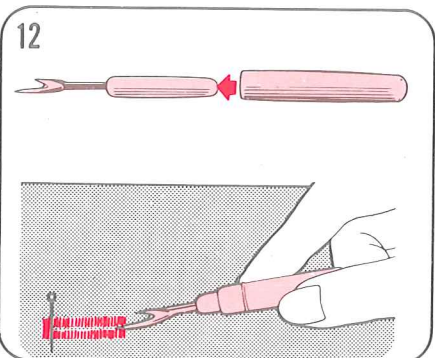
9. 針がかんぬき止めの左端より
少し左になるよう布をずらし
ます。



10. 押え上げレバーを下げて、ボ
タンホールを縫いま
す。
縫い終わりましたら、ミシン
から布をはずします。



11. 布をうら返して下糸を引っば
り上糸を引き出してコマ結び
をします。

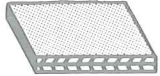
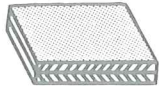
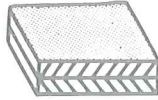





12. 縫い目を切らないように中央
を切り開きます。
(市販のリッパー等をご使用
ください。)
* まち針をかんぬき止め部にさ
しておくとしりッパーでの切り
込みすぎを防ぎます。

D 針、糸、布の組み合わせかた

布地に合った針と糸を使用するのがきれいに縫うポイントです。

きれいに縫えないときは、下記表を参考にし、布地に合った針、糸をお選びください。

		薄物縫い	普通物縫い	厚物縫い
				
針、糸、布地の関係	 針	65/9番～75/11番	75/11番～90/14番	100/16番
	 糸	ポリエステル90番 綿80番～120番 絹80番	ポリエステル50番～60番 綿60番～80番 絹50番～80番	ポリエステル30番～50番 綿40番～50番 絹50番
	 布地	薄物一般 裏地、ジョーゼット ローン等	木綿一般 ジャージ、リンネル、 ウール、サージ、 ギャバジン、シャーク スキン、サテン等	厚物一般 キルティング地、 デニム、ツイード、 ウール、サージ等
糸調子のとりかた	糸調子 (目安となるダイ ヤル数字)	ふつうよりよわく (1)	ふつう (2～4)	ふつうよりややつよく (5)

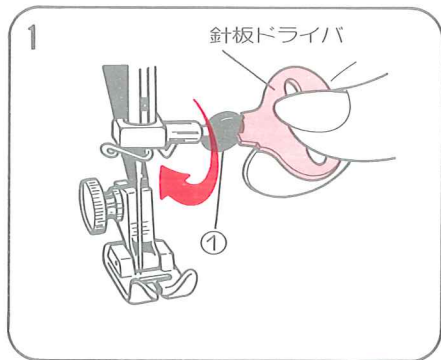
* しん縮性の布地の縫い合わせのときにはボールポイント針を使用してください。

* ミシン針は家庭用(HA-1)のミシン針をご使用ください。

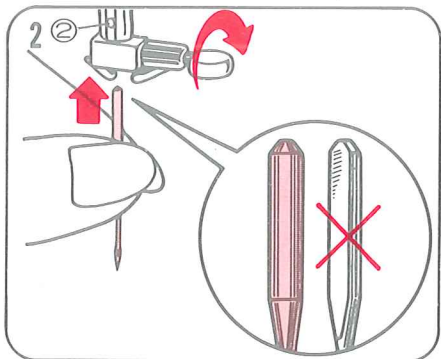
E 針のとりかえかた

1. プーリー(はずみ車)を手前にまわし針を最上点にあげ、針止めネジ①をゆるめて針を抜きとります。
(付属品の針板ドライバーを使用します。)

* 針止めネジをゆるめすぎて針止めネジがはずれないよう気をつけてください。



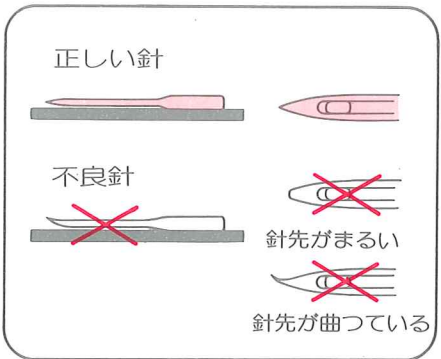
2. 新しい針の平らな面を向う側に向け、ピン②に当たるまで押し込み、針止めネジをしっかりしめます。



正しい針の選びかた

不良の針を使いますと、よく縫えないばかりでなく、針板やカマにキズをつけたり、針を折ったりします。

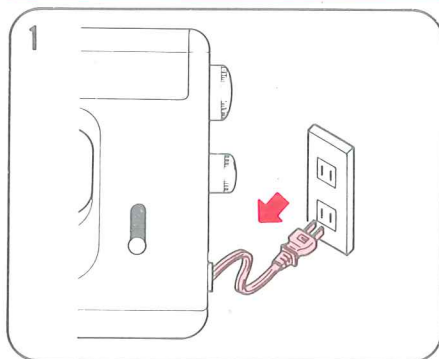
* 目とび、糸切れの場合、まず針を替えてみてください。



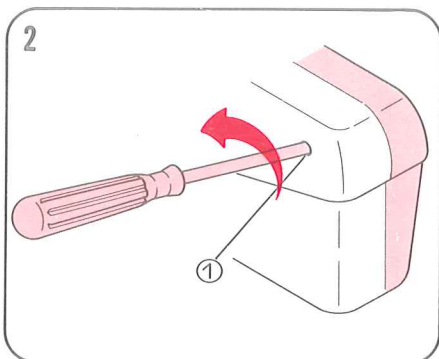
F 電球の交換のしかた

1. 電球を交換するときは、START・STOP ボタンを“STOP”にし、スピード切替ボタンをOFF(停止)にしてください。

* 必ず電源プラグは抜いてください。

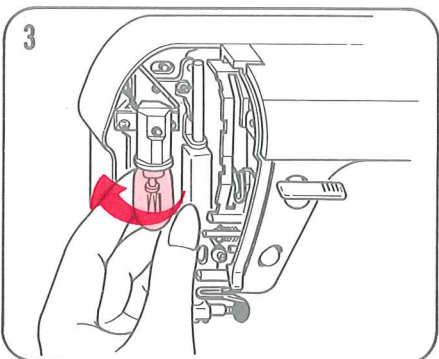


2. ネジ①をドライバーでゆるめ面板をとりはずします。



3. 電球は左方向に回してとりはずします。
新しい電球を右方向に回しながらねじ込みます。

* 電球は白熱ランプ100V15Wで口金はE12です。



G ミシンのお手入れ

ミシンをいつまでも調子よくお使いいただくためにお手入れを定期的に行ってください。

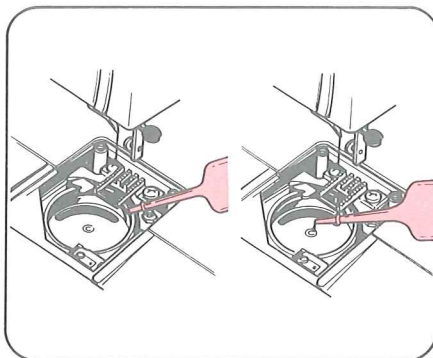
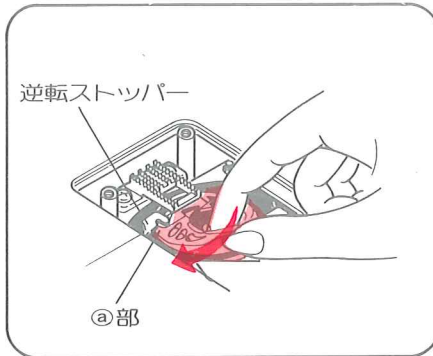
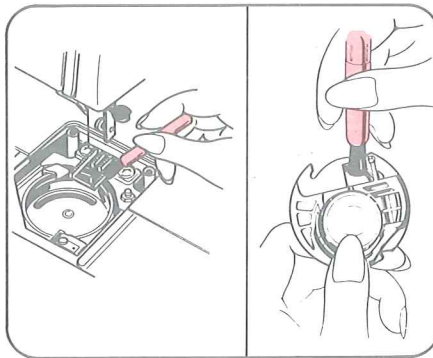
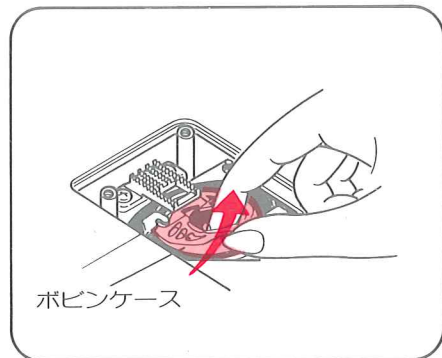
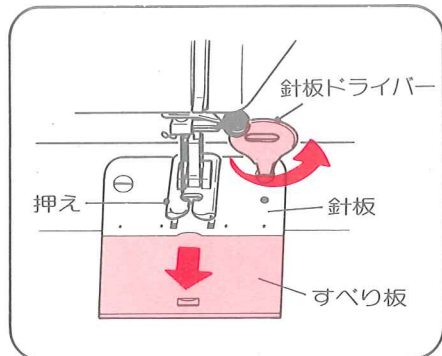
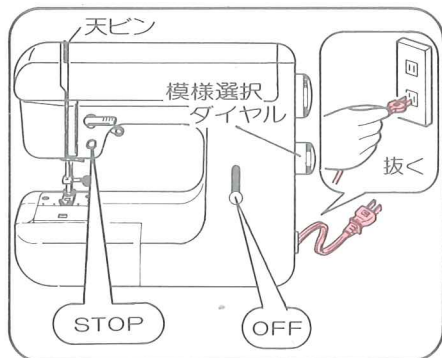
1. お手入れをするときは、START・STOP ボタンを“STOP”にし、電源・スピード切替ボタンをOFF(停止)にしてください。

*** 必ず電源プラグは抜いてください。**

2. 模様選択ダイヤルを6にセットし、天ピンを最上点に上げ、針をはずします。

3. すべり板を開け、付属の針板ドライバーで押えと、針板を外します。

4. ボビンケースを、図のように持ち上げ右方向からはずします。



5. 送り歯の上の糸フズやほこりを手前に落とし、カマについたほこりを取り布で軽くふきます。
6. ボビンケースについたほこりや糸くずをブラシで取り、その後、布で軽くふきます。

—ボビンケースのはめ方—
逆転ストッパーにボビンケースの@部が、当るように右方向から取りつけます。

注油のしかた

カマの摺動部、及び中央部の穴に1滴注油します。

- * 注油が多すぎますと糸やボビンが汚れたり、縫い不良などトラブルの原因となりますのでごく少量にとどめてください。
- * 注油後は安心して使つていただくために汚れてもよい布で必ずためし縫いをしてください。
- * 油はミシン油を使用してください。

H ミシンの調子が悪いとき

どこが調子悪いのですか？

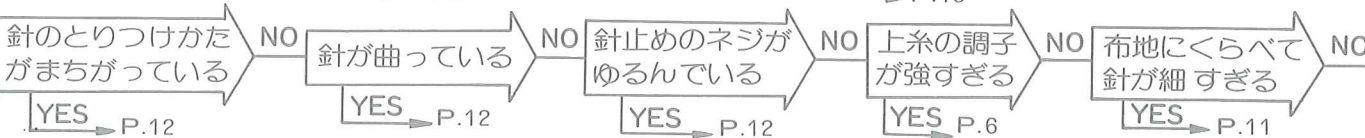
次のことを確かめてみましょう

● 以下の原因を取りのぞいてもまだ調子が悪い場合は購入店又は保証書の販売会社へ御連絡ください。

音が高い
回転しない



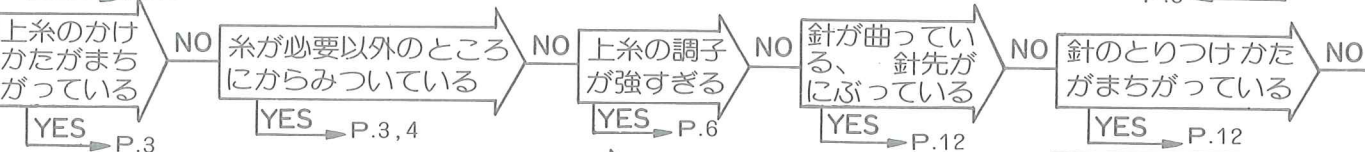
針がおれる



布送りがうまくいかない



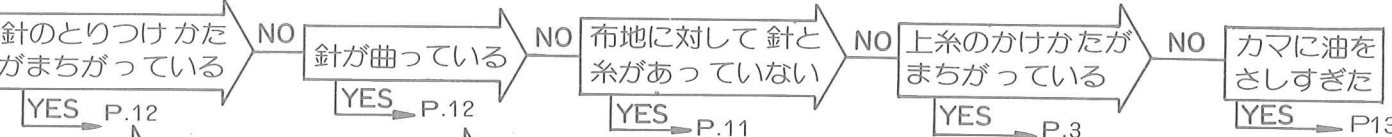
上糸が切れる



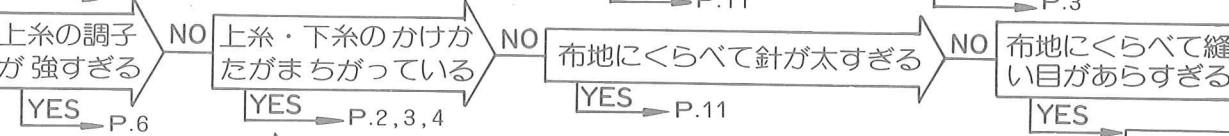
下糸が切れる



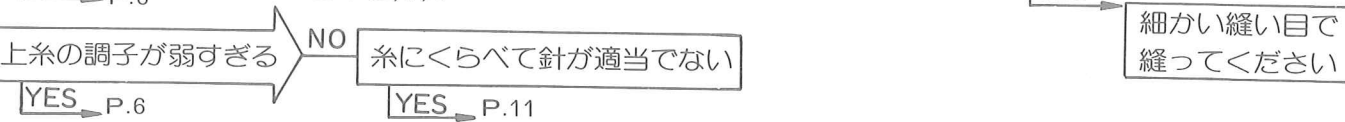
縫い目がとぶ



縫い目がしわになる



縫い目に輪ができる



1 修理、サービスについて

★修理サービスのご相談

1. お買い求めのミシンには、購入店(保証責任者)から1年間の無料修理保証書が発行されています。内容をお確かめのうえ大切に保存してください。
2. 修理サービスは、お買い求めのミシンを末ながくご愛用いただけるよう無料修理保証期間内および経過後も、アフターサービスに万全を期していますので、購入店へ遠慮なくご相談ください。

★修理部品の保有期間

1. 交換修理に必要な動力伝達機能部品および縫製機能部品は、通常、製造打切り後8年間の基準にして、当社において保有しています。
2. 修理部品は必要に応じて、当社より購入店に供給できるような体制を整えております。

★無料修理保証期間経過後の修理サービス

1. 使用説明書に基づいて、正しいご使用とお手入れがされていれば無料修理保証期間を経過しても、修理部品保有期間中は購入店を通じて有料修理サービスをいたします。
ただし、次のような場合は、有料でも修理できない場合がありますので購入店へご相談ください。
(1) 浸水、冠水、火災等、天災地変により故障または損傷したとき。
(2) お買い求め後の移転または、輸送によって故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたって使用された場合、アフターサービスに万全を期しましても、新品同様の性能までに修理できないことがあります。
3. 有料サービスの場合の費用は、必要部品代、出張修理の場合は出張費、ミシン送付修理の場合は往復の送料、および購入店が別に定める技術料の合計額になります。

アイシン家庭用機器販売株式会社

〒450 名古屋市中村区名駅4丁目10番27号

☎ (052)582-8501

ファクシミリ (052)582-5910

アイシン精機株式会社

〒448 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

☎ フリーダイヤル 0120-24-8640

ファクシミリ 0566-24-8817